



平成29年5月12日

各位

会社名 サンコール株式会社
代表者名 代表取締役社長 山主 千尋
(コード番号: 5985 東証第1部)
問合せ先 業務・管理部門長 杉村 和俊
電話番号 : (075) 881-5280

サンコール株式会社/中期経営方針・計画ローリングに関するお知らせ

サンコール株式会社は更なる『企業価値の向上』を目指し、平成28年5月に中期経営方針を策定し、将来へ向けた継続的な事業の拡大発展に向けて取り組んでおります。
このたび、2016年度の進捗を踏まえ、中期計画の達成に向けた施策の確認を行いましたので、お知らせいたします。

1. 中期経営方針と進捗状況

当社事業は自動車/電子情報通信のセグメントで構成され、自動車セグメントは連結売上高の約70%、電子情報通信セグメントは連結売上高の約30%を占めています。また、新たな分野として医療・環境分野において新規事業の開拓を進め、グローバルでの連結売上目標を500億円として取り組んでいます。
各セグメントにおける経営方針、進捗状況、施策は以下の通りです。

1) 自動車セグメント

－経営方針：既存事業の基盤強化と拡大

中国、メキシコの自動車用線材生産能力を引き上げ、日本を含めた3拠点による生産効率化の追求と最適生産・供給体制の構築を進めます。

グローバル生産体制の強化を着実に進めることで、収益拡大と収益構造の改善を目指します。

－進捗状況：

主力製品である自動車エンジン/ミッション系精密機能部品の需要増に伴い、線材供給能力の増強を進めたことから、中国においては歩留り改善による供給量の増加、メキシコにおいては計画通り生産ラインが立ち上がり、材料生産は予定していた供給能力を実現できる体制を確立しました。

－施策：

線材生産は供給能力に応じた受注を進め稼働率を高めると共に、顧客の中期的な需要予測の精度を上げて、更なる生産と供給の効率化を目指します。

また、自動車安全装置の重要性の高まりと共にシートベルト需要も増加しており、当社のグローバル拠点を活用することで、顧客のニーズを確実に掘り対応する体制を構築して参ります。

2) 電子情報通信セグメント

－経営方針：経営資源の集中と開発・営業力の強化

クラウドコンピューティングの成長によるデータセンター向け需要拡大をターゲットとして経営資源を集中し、開発力、営業力を強化しシェアの維持・拡大を図ります。

－進捗状況

ハードディスク用サスペンションは主力モデル生産ラインの増設と改良を実施、客先需要を取り込む体制構築を進めています。

光通信用部品は需要増が予測される北米、中国市場にターゲットを置き、販売体制の強化を図っています。

－施策：

ハードディスク用サスペンションは2017年度も主力モデル生産能力増強に資源の投下を計画、シェアアップを図ります。

光通信用部品は引き続き販売強化による顧客開拓を進め、需要の取り込みを図ります。

3) 新規事業への取り組み

－経営方針：

自動車の電動化、軽量化の加速により、電子化製品の需要増加と素材転換が進む中、当社の得意とする精密塑性加工技術と電子情報通信部品製造技術を応用したHV・EV・FCVに搭載されるキーパーツの開発と量産化を進め、将来の中核事業へ育成します。また、既存製品に代わる素材の研究開発に取り組めます。

成長が見込まれる医療・環境分野への新規事業開拓を進め、医療・介護機器市場、環境・エネルギー関連市場への参入を図ります。

－進捗状況：

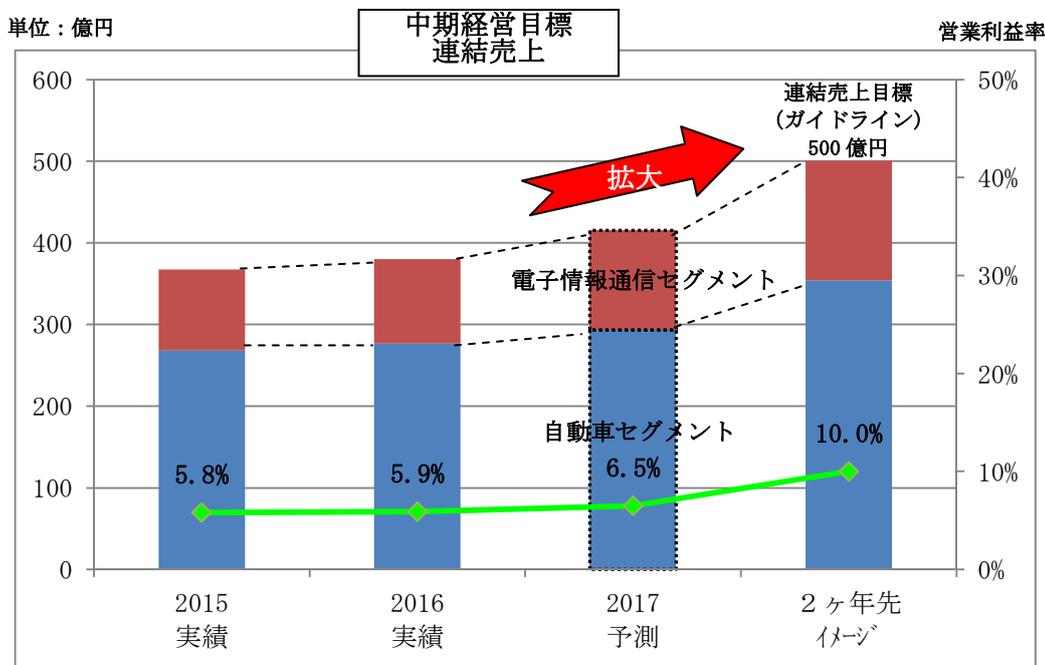
自動車電動化に伴い需要増が見込まれる大電流センサーの開発を進め(KOA社との共同開発)、展示会へ出展したことから、国内外から多くの引き合いを頂いています。一部量産採用が決まり、2017年度より販売を開始します。

医療事業として、人工膝関節置換手術後の装着型リハビリロボット”KAI-R”の製造販売業許可を取得しました。2018年度の上市に向けての準備を進めています。また京都大学 COI プログラムで取り組んでいる脳卒中後の歩行リハビリロボットは改良型2号機が完成し、2017年度より評価データ収集を本格化させています。環境・エネルギー関連事業として、太陽電池に使用されるシリコン・ウエハの切断ダイヤモンド砥粒電着ワイヤーソーの量産体制を確立しました。

一 施策：

大電流センサーはお客様より頂いている引き合いを量産採用へ繋げるべく取り組みます。
 ダイヤモンド・ワイヤーは受注活動を進め、安定した受注獲得と効率的な量産稼働を目指して参ります。
 歩行リハビリロボット、他開発案件は製品完成を進め、早期事業参入を促進します。

一 中期経営目標（ガイドライン）



北米・中国の自動車需要、米新政府の貿易政策によるメキシコ事業の影響、為替変動など、外部環境の変化も予測されますが、リスク対策と前述の施策を進める事により、中期経営目標（ガイドライン）の達成を目指します。

2. 財務方針

引き続き、既存事業の基盤拡大強化、成長市場・分野へ経営資源を集中し、メリハリのある経営資源の投入を図ります。
 新規事業の展開は自社経営資源の投入、技術開発のみならず、M&Aも視野に入れて進めて参ります。
 事業創出キャッシュフローからの投資を進めますが、成長事業への投資規模によってはキャッシュ対策を検討して参ります。

3. 利益還元政策

平成28年5月13日付「サンコール株式会社/中期経営方針について」にて開示しました、利益還元政策を継続し、業績の拡大に応じた配当性向の実現を目指して参ります。内容は以下となります。

	2015年 実績	2016年 実績	2017年 予測	中期経営目標 (2年先をイメージ)
連結売上	367億円	379億円	415億円	連結売上500億円、営業利益率10%を目指し、上記施策を実行
営業利益率	5.8%	5.9%	6.5%	
投資金額	単年度 43億円	単年度 37億円	単年度 36億円	2ヶ年累計 70億円
配当金	1株当たり 18円	1株当たり 18円 (予定)	1株当たり 18円 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 株主帰属当期純利益に対する配当性向 25億円/年までの部分 25% 25億円/年を超える部分 35% 18年度まで 1株当たり18円の維持を下限目標とする

以上